

「おしゃれ自書 2003」にみる  
「洋服のサイズ」

理想は、より小さく、よりスリムに  
～若い人、自分を魅力的と思う人、自分の容姿に満足している人も、さらにさらに～

2004/1/23

ポーラ文化研究所

(担当：小松 秀雄)

## 要旨

15 歳から 64 歳の女性の現在の洋服のサイズと理想の洋服サイズとを訊いた。上着とパンツスカートを比べた場合、現在のサイズでは後者の号数がやや大きい方に膨らんでいた。理想のサイズを訊くと、若年層において顕著にワンサイズ小さい号数へのシフトが認められた。骨格的には若年層ほど大きくなっていく傾向にあるにもかかわらず、サイズは 9 号から 7 号へ、さらに 7 号から 5 号へ向けて、かわいく、小さく、スリムに、といった方向性がはっきりと表れていた。

## I. 目的

近年、特に若い女性の間には痩身願望が顕著であり、適正範囲にあると思われる女性までが、肥満に対する健康上の減量というよりは、スタイル、ファッション上の要請から、かわいく、小さく、スリムに、という指向が強くなってきている。そのような中で、洋服について、現在のサイズと理想のサイズについて訊いてみた。

## II. 調査概要

「おしゃれ白書 2003」はポーラ文化研究所が 1991 年より継続している調査で、3 年毎に実施している。概要は以下の通りとなる。

調査対象                    首都圏 30km 圏内  
 調査対象者                上記エリア内に居住する 15 歳から 64 歳までの女性 910 人

### サンプルデザイン (単位: 人)

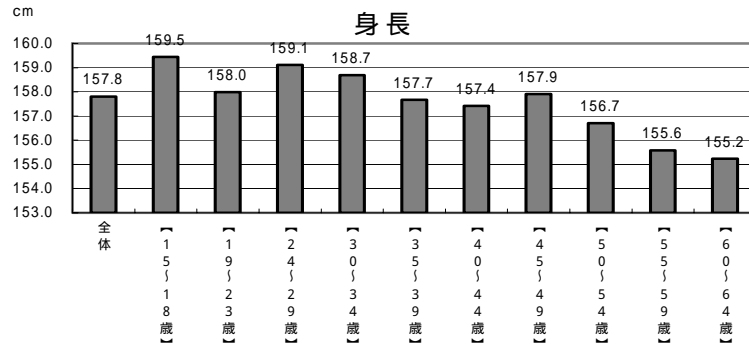
15-18 歳	(高校生)	70
19-23 歳	(学 生)	70
19-23 歳	(社会人)	70
24-29 歳	(未 婚)	70
24-29 歳	(既 婚)	70
30-34 歳	(未 婚)	70
30-34 歳	(既 婚)	70
35-39 歳		70
40-44 歳		70
45-49 歳		70
50-54 歳		70
55-59 歳		70
60-64 歳		70

調査対象者抽出法    エリアサンプリング方式  
 調査方法                個別訪問面接聴取法、及び、留置き法の併用  
 調査期間                2003 年 6 月

1. 身長

平均身長は、157.8cm であり、【15～19 歳】 159.5 c mから【60～64 歳】 155.2 c mまで多少の凹凸を含みつつ、なだらかに下降している（図1）。

図1



2. 総論

上着サイズは、【現在】、【理想】ともに9号にピークが来ているが、【現在】から【理想】へは、9号→7号、11号→9号へと、1サイズ下のサイズが10%以上増加している。【理想】のサイズを見ると、9号が【現在】より高いピークとなり、その両側で7号が増え、11号が減るパターンとなっている（図2）。

パンツスカートも、【現在】、【理想】ともに9号にピークを持っている。【理想】のパターンは上着とほぼ重なるが、【現在】のサイズは、11号、13号へと大きいサイズ側に広がってブロードなパターンを示している（図3）。

上着とパンツスカートとを比較した場合、【理想】のパターンはほぼ同じ形を示しているが、【現在】のパターンは、パンツスカートの方が、11号、13号のサイズの側へふくらみを見せており、上着よりもパンツスカートの方がやや大きめサイズであることを示している。

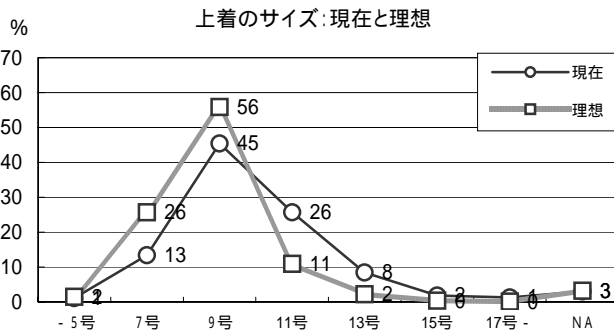


図2

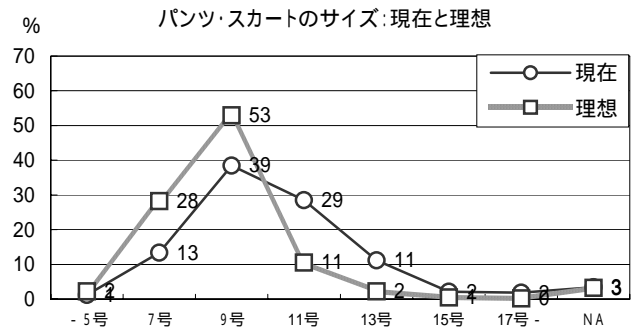


図3

3. 【理想】のサイズの【現在】

【理想】の上着サイズを答えている人の【現在】のサイズを見ると、【理想】を9～13号と答えた人の中には、自分の現在のサイズで充足している人が約60%存在し（矢印）、ワンサイズ号数を落としたいと思っている人は、25～33%しかいないことがわかる。一方、【理想】が5号、7号の人で、【現在】5号、7号の人は、それぞれ36%、44%であり（矢印）、上の号数から移りたいと考える人の割合が大きく、9号→7号へ、7号→5号へと、小さい号数の人ほどより小さくなりたい、との願望が認められる（図4）。

パンツスカートに関しては、より小さく、の願望が上着よりも拡大しており、【理想】のサイズが9号、11号の人でも、現状で充足している人（矢印）とワンサイズ下げたい人とがほぼ拮抗している。上着に比べて、パンツスカートは、【現在】のサイズが大きい号数側に膨らんでおり、それを【理想】と考えるサイズに持っていきたいという思いが強く現れている（図5）。

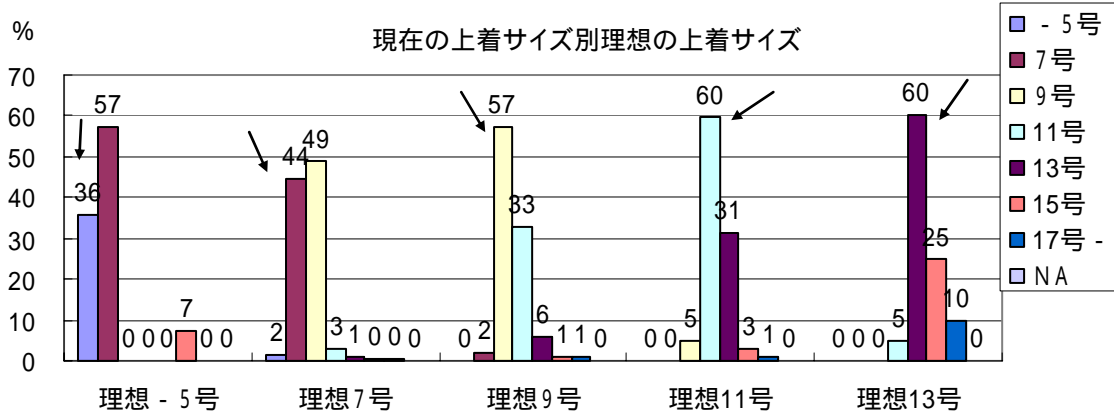
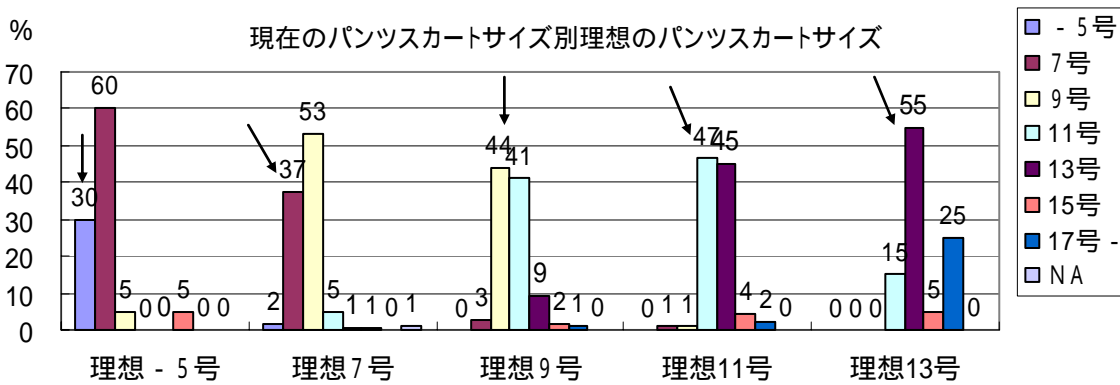


図4

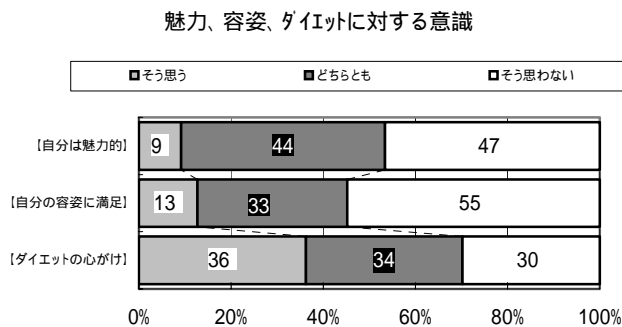
図5



4. 高い身体意識を持つ人の【現在】と【理想】

「自分は人並み以上に魅力的だと思う」、「自分の容姿に結構満足している」、「普段からダイエットを心がけている」という項目について聞いたところ、図6に示すように、「魅力」と「容姿」に関する肯定的な自意識はそれぞれ9%、13%と“控えめな”数値であった。「ダイエット」に関しては、36%が心がけている、と答え、スタイルの維持向上へ向けた意識の高さが現れている。「魅力」、「容姿」、「ダイエット」に対する意識と、その人たちにとっての洋服のサイズの【現在】と【理想】について検討した。

図6



4-1. 「魅力的」と洋服のサイズ

自分の魅力に対して、肯定的な人、どちらとも言えない人、否定的な人の【現在の着】のサイズをみた (図 7a)。分布は3群とも9号(白いバー)が最大である。各群について9号以下を集計してみると、75%、66%、53%と肯定的な人ほど、その割合が高く、3者間で明確な差が現れている。一方、【理想の着】のサイズでは、9号以下の集計値は、肯定的な人で更に割合が増加して88%にまで達しているが、他の2群での希望は更に著しく、それぞれ86%、78%へと増加し、3者間の差が非常に縮まっている (図 7b)。【現在のパンツ・スカート】の9号以下の割合は、いずれも【上着】より若干低く、上から、70%、60%、44%であるが、【理想のパンツ・スカート】では、それが、88%、86%、80%と、上着と同レベルの回答になっており、より小さいサイズに向かう“確たる”理想像が感じられる (図 8a,b)。「自分は魅力的」と答えた肯定的な人について、【現在】と【理想】とを並べてみた場合、9号を頂点としたシャープなパターンを呈しており、9号の【現在】は【理想】とほぼ同じ高さのピークを示している。11号→9号、9号→7号へのシフトで、見かけ上、11号が減って、7号が増えた形になっている (図 9a,b)。

図 7a,b

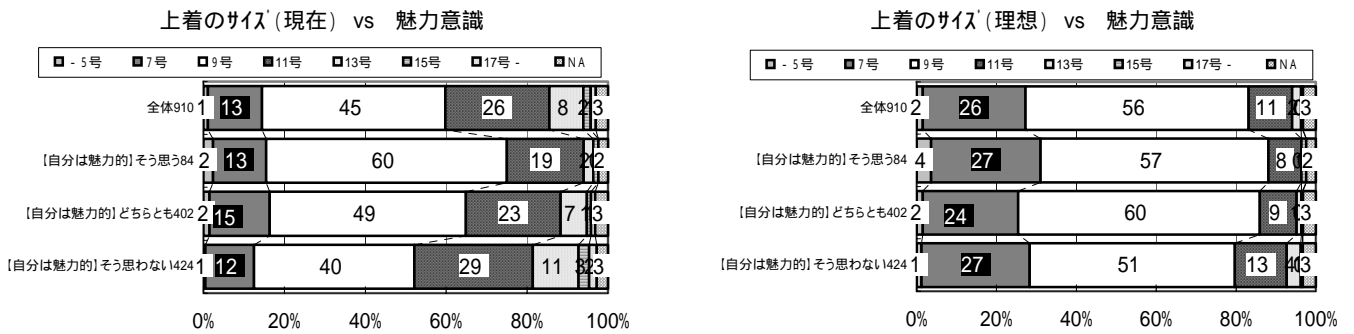


図 8a,b

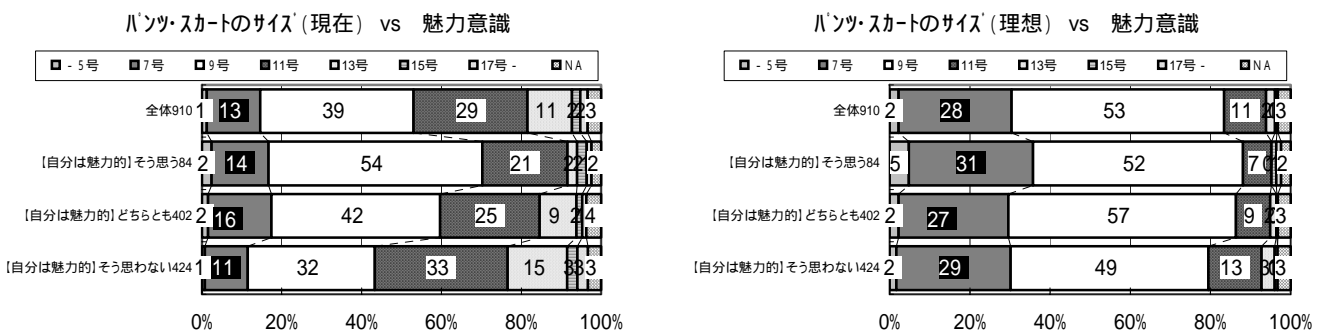
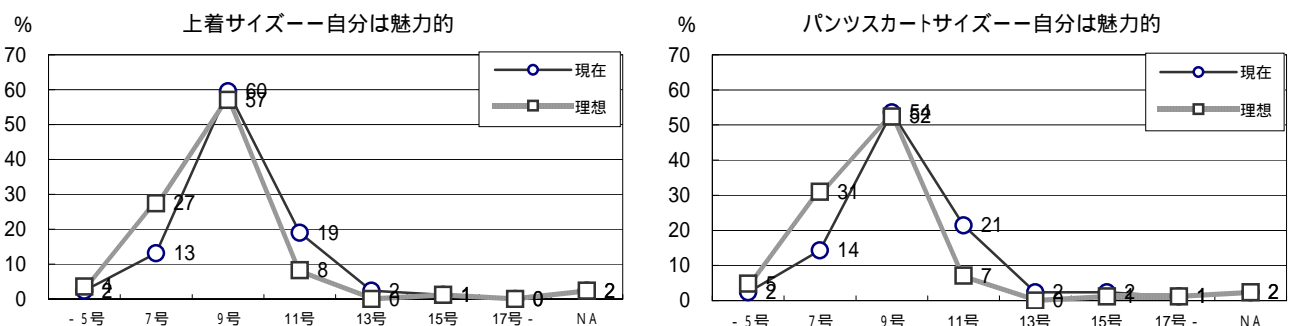


図 9a,b



4-2. 「容姿に満足」と洋服のサイズ

「自分の容姿」に対して、肯定的な人、どちらとも言えない人、否定的な人の【現在の着】のサイズをみた(図10a)。3群についての9号以下の集計で、78%、65%、53%と肯定的な人において、「容姿に満足の人」は「魅力的」と答えた人より若干高い割合を示しているが、他の群は、「魅力」の場合とほぼ同レベルであった。【理想の着】のサイズでも同様であり、肯定的な人は93%が9号以下に集まり、「魅力的」の88%を凌いだ。他の2群では大きな差はみられなかった(図10b)。この傾向は、【現在のパンツ・スカート】、【理想のパンツ・スカート】でも同じであり、「自分の容姿」に対して肯定的な人は、【現在】でも洋服のサイズは小さく、【理想】ではそれを更に小さいサイズに持っていきたいという願望がみられる(図11a,b)。

「自分の容姿に満足」と答えた肯定的な人について、【現在】と【理想】とを並べてみた場合、「魅力的な人」よりも9号を頂点とした更に鋭いパターンとなっており、パンツスーツの11号側へのふくらみも極めて小さい。「容姿」に高い関心を示している人は、体型に関して平素からのケアも怠りなく行っていることが窺われる(図12a,b)。

図10a,b

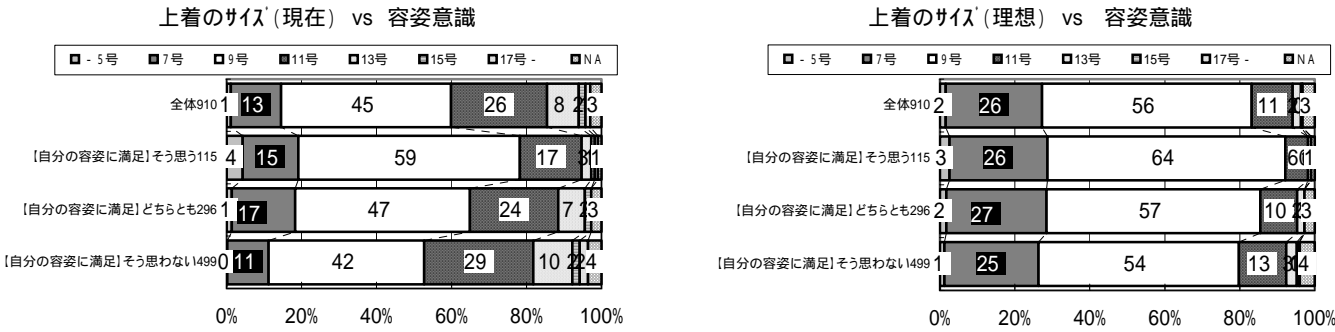


図11a,b

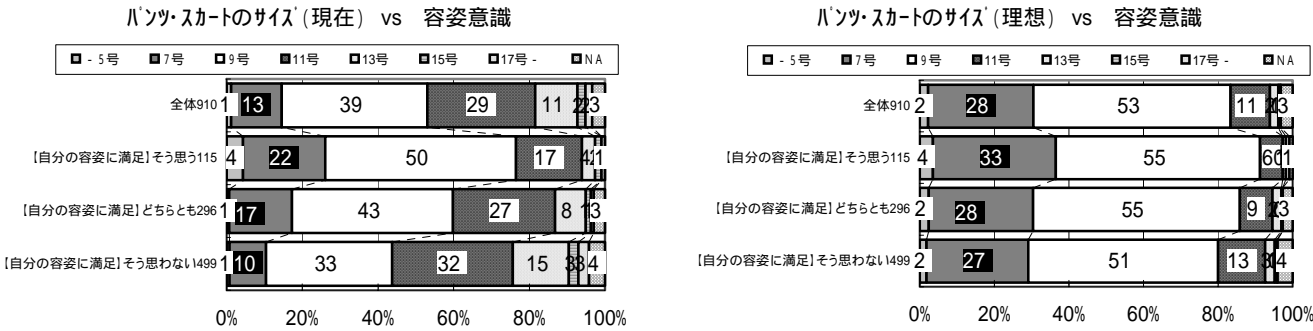
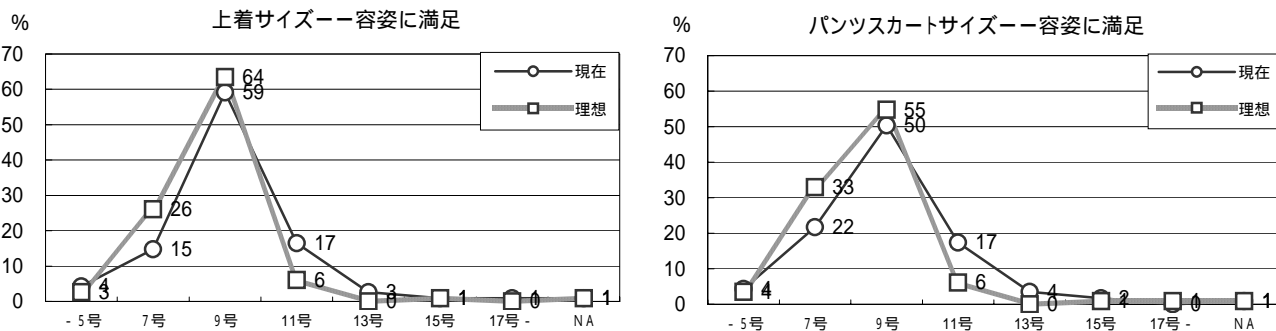


図12a,b



4-3. 「ダイエットの心がけ」と洋服のサイズ

「ダイエットの心がけ」に対して、肯定的な人、どちらとも言えない人、否定的な人の【洋服のサイズ】をみた(図 13、14)。「理想のサイズ」が 9 号以下でほぼ横並びになるのは同様の傾向であるが、「魅力」や「容姿」のパターンと異なって、【現在のサイズ】においては、3 群とも、ほぼ全体平均に近いところに分布して、大きな差が現れていない(図 13a、14a)。

図 15a,b の「ダイエットを心がけている人」のパターンは、全体のグラフ(図 2、3) とほぼ同じパターンを示している。パンツ・スカートに関しては、「ダイエット」によって、【現在】の大きいサイズから【理想】とする小さいサイズへ向かいたいとする意向は、全体平均と比べて、より強いと言える(【現在】の 11 号:「ダイエット」32% > 「全体」29%; 【理想】の 9 号:「ダイエット」31% > 「全体」28%)。逆に、「ダイエットを心がけていない人」の方が、7 号以下でみても、9 号以下でみても、その割合は、他の群より高く、ダイエットを必要としない人がこの群に入っていることが考えられる。

図 13a,b

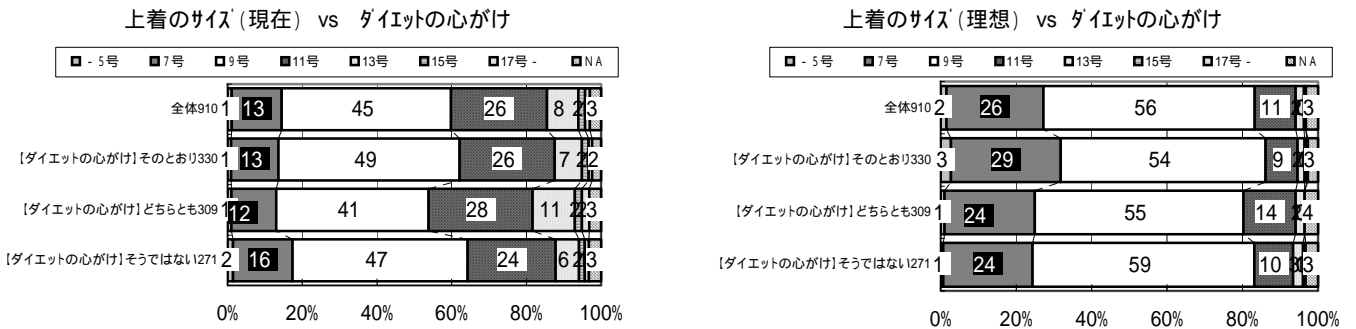


図 14a,b

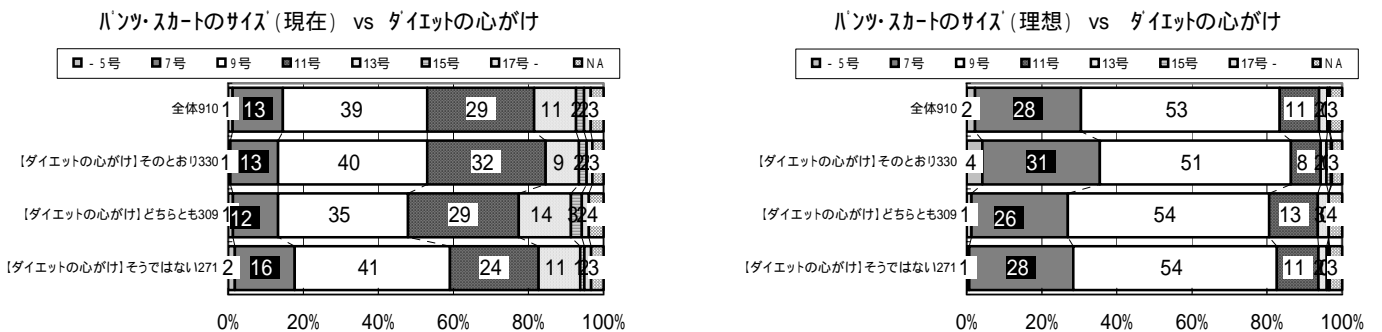
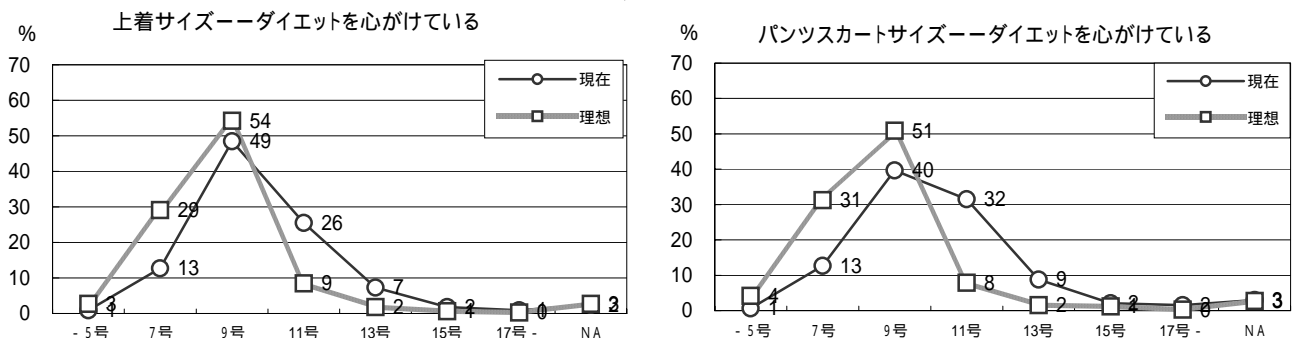


図 15a,b



5. 年齢別【現在】と【理想】

上着サイズについて年齢別に見た場合、「15～18歳」(図16a)、「19～23歳」(図17a)、「24～29歳」(図18a)において、【理想】では、9号のピークとともに7号側に大きくふくらんで、なだらかな山形のパターンになっている。「30～34歳」(図19a)ではこの7号のふくらみは小さく、9号で高いピークを形成している。「35～39歳」(図20a)になると、パターンはほぼ同様であるが、9号のピークが小さくなり、その分が少しずつ上の号数へと分布している。20代以下の女性で、11号から9号へ、さらに9号から7号へと、より小さいサイズへの強い願望が明らかである。この傾向は、パンツ・スカートにおいても顕著であり、特に「19～23歳」(図17b)においては、7号、9号がほぼ同数の台形型の【理想】パターンを見せている。体位が向上し骨格も大きくなっているはずの若年層側で、“さらに小さく、さらに細く”、という痩身願望が非常に強く現れている。一方で、「35～39歳」(図20)以降の【現在】では、11号以上のふくらみが次第に大きくなり、台形パターンが生じてきて、ついに「55～59歳」、「60～64歳」では9号に代わって11号がピークになっている(図24、25)。【理想】の「35～39歳」以降では、7号にふくらみが出てこなくなって次第に11号の割合が増えてくる(図20～25)。特に55歳以降では、ピークの位置は9号で60%弱を集めているが、11号が20%を上回り、【理想】のサイズも現実的に大きい号数側にシフトしてきている(図24、25)。

図16a

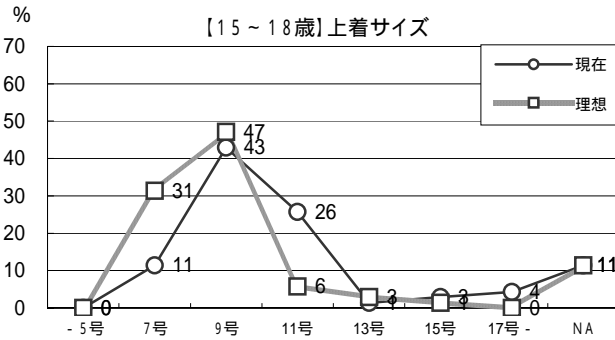


図16b

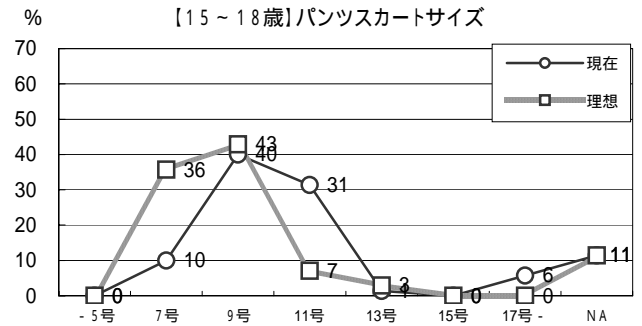


図17a

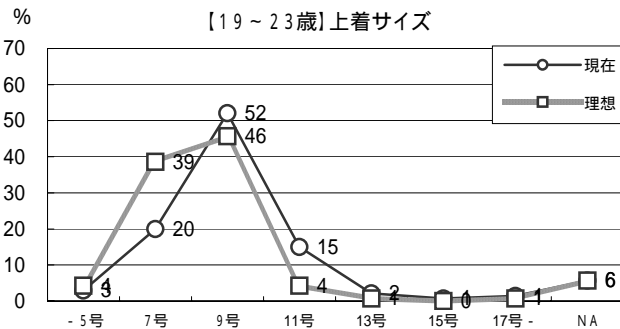


図17b

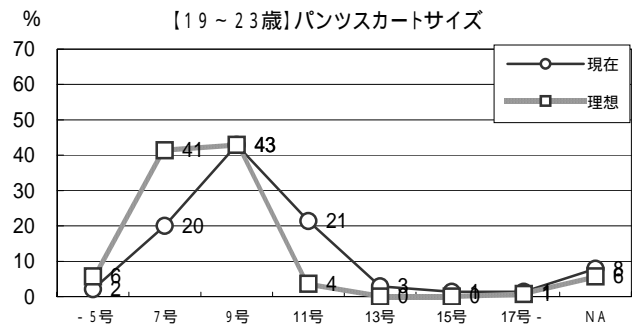


図18a

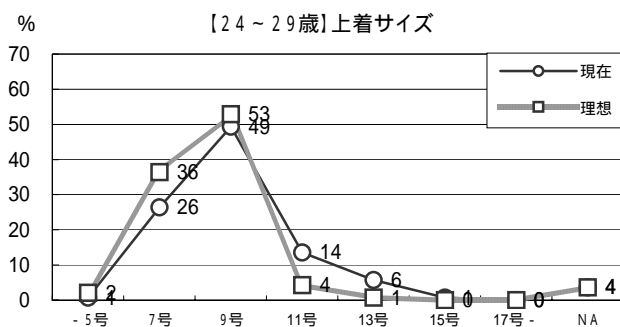


図18b

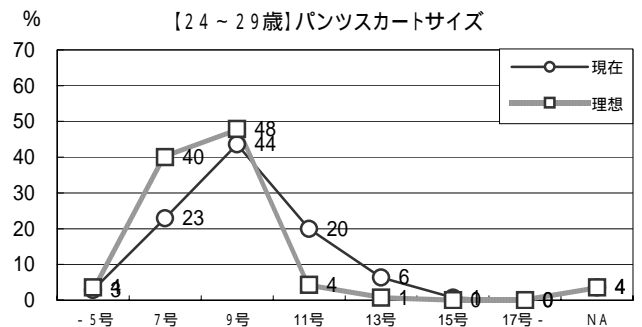




図 19a

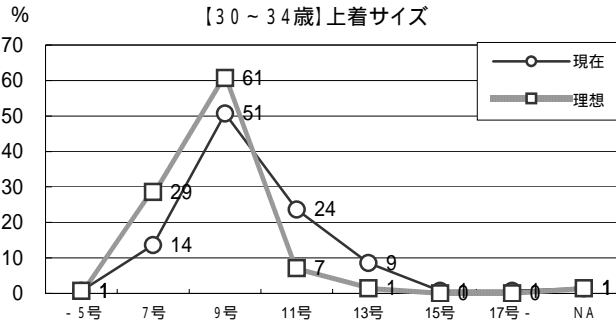


図 19b

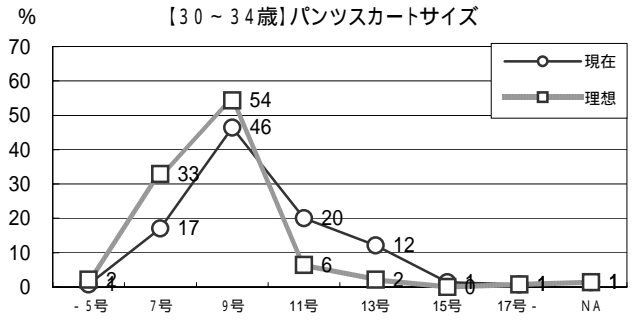


図 20a

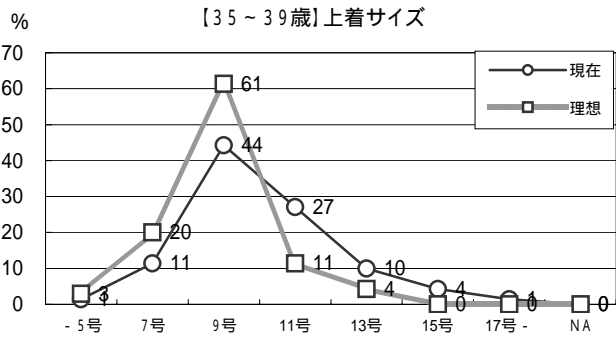


図 20b

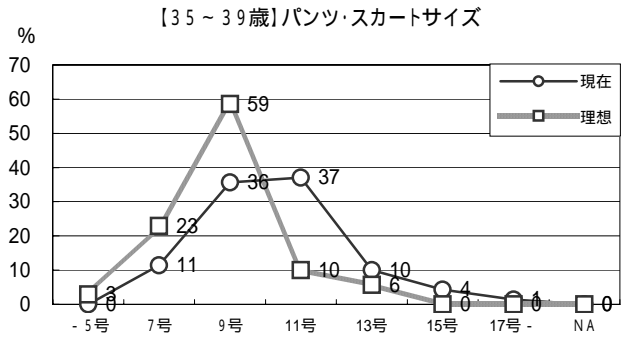


図 21a

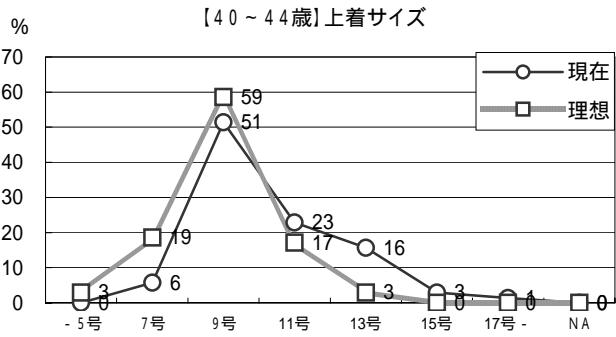


図 21b

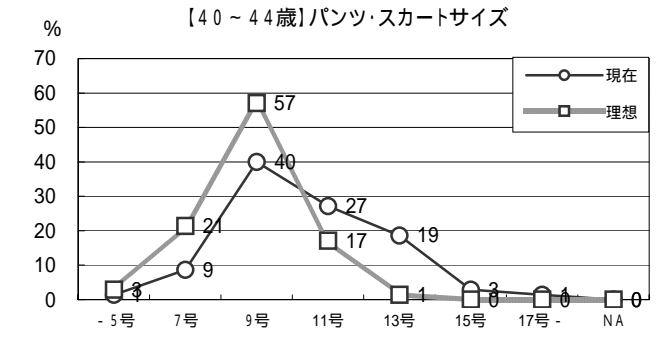


図 22a

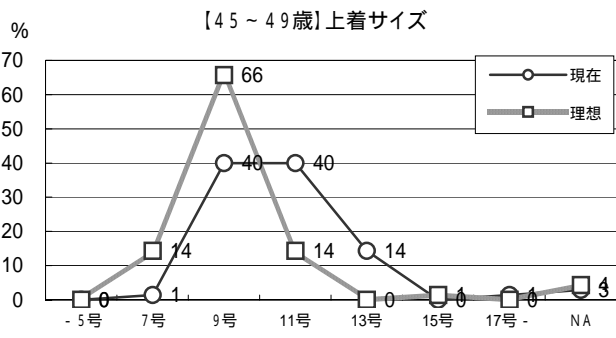


図 22b

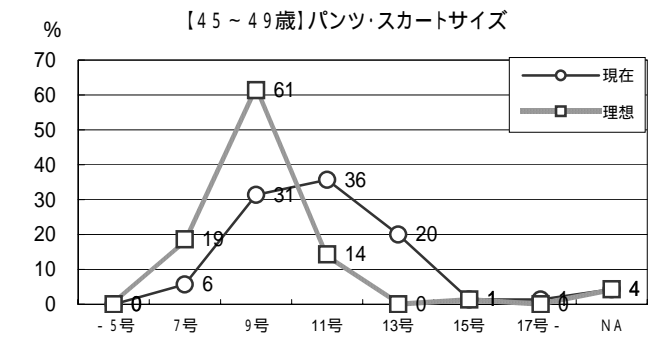


図 23a

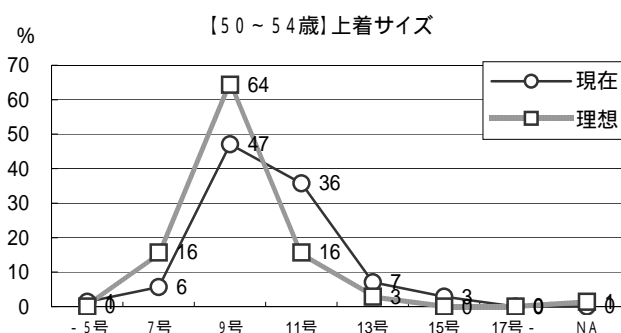


図 23b

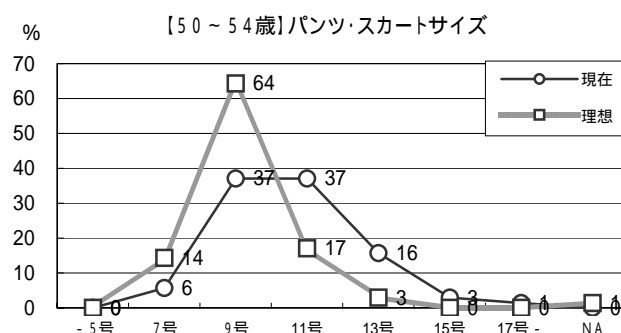


図 24a

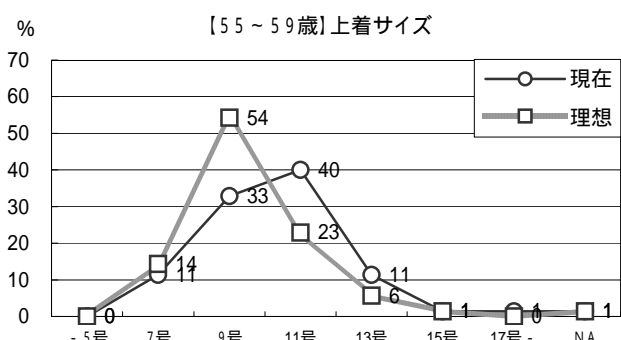


図 24b

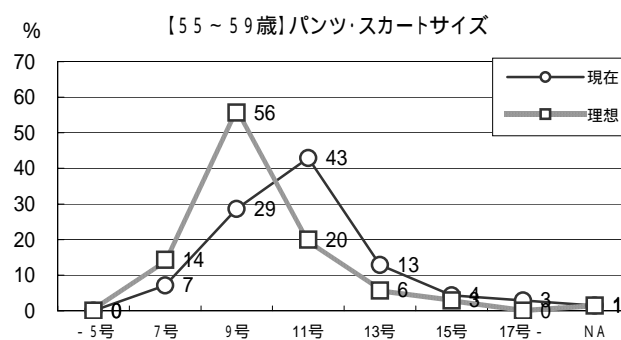


図 25a

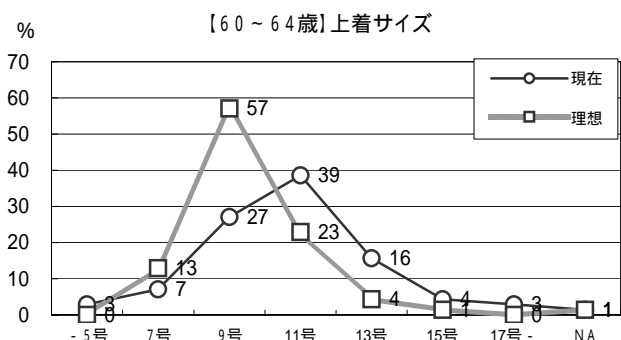
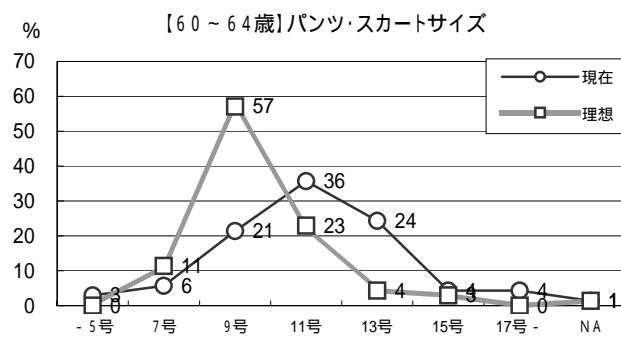


図 25b



6. 結語

理想のサイズを訊くと、若年層において顕著にワンサイズ小さい号数へのシフトが認められた。【ダイエットを心がけている人】に見られる11号、13号と膨らんだ現状を、理想と考える号数へと戻していこうとする努力はともかくとして、【魅力的な人】、【容姿に満足している人】が、現状でも充分小さいサイズと思われるにもかかわらず、更に小さいサイズを理想として追い求めていることが明らかになった。これらの群が年齢的にも若く、身長も大きいことが図 26、27 から示されているが、骨格的には大きくなっていく傾向にあるにもかかわらず、サイズは9号から7号へ向けて、かわいく、小さく、スリムに、といった指向性が、はっきりと表れていた。

図 26

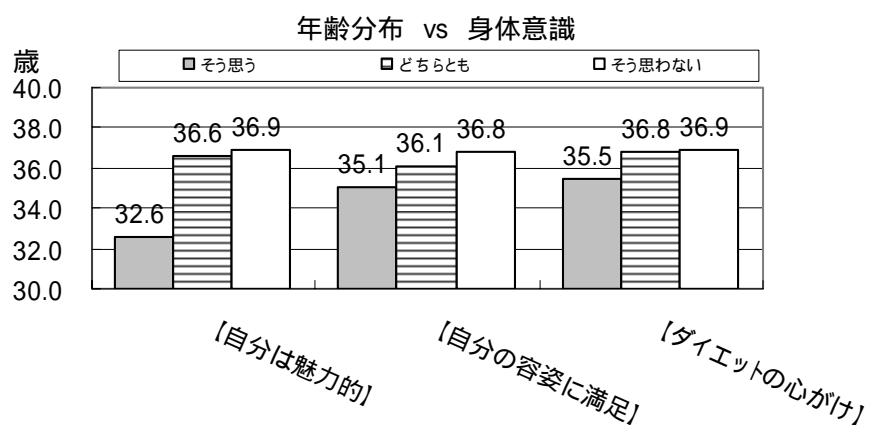


図 27

